（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和７年４月９日

県立大和西高等学校長

令和６年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和6年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 11 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○教育課程全体で学力や豊かな人間性、社会性の涵養を育み、グローバル人材を育成する。 ○次世代の学校教育を視野に入れた授業改善を継続する。	①世界への関心を深め、多様な存在について相互理解を深めようとする姿勢を培う。 ②バランスの取れた教育課程の実施に向け、魅力ある取組を行う。 ③よりよい授業の実践のための創意工夫を継続する。	①ICT の活用など、世界の人々と交流する方法を模索し、相互理解を深める。 ②話し合い活動を効果的に取り入れる授業実践や海外修学旅行などの行事、国内外の姉妹校との交流や留学生受入などの取組を行う。 ③教科の枠を超えた研究授業を実践し、授業改善のための研究協議を行う。	①グローバル教育アンケートで「国際的な理解が深まった」と答える生徒が 80％を超えたか。 ②話し合い活動を取り入れる授業実践や行事、国内外の姉妹校との交流や留学生受入などの取組を効果的に実践できたか。 ③研究授業、研究協議を実践し、その成果を共有することができたか。	①生徒対象アンケート結果では「異文化理解が深まった」と答える生徒が引き続き目標の 80％を超えた。 ②台湾修学旅行を 5 年ぶりに実施することができた。またアメリカ・ドイツ・ニュージーランド姉妹校・交流校訪問や座間アメリカン・ハイスクールとの交流、ドイツ・台湾姉妹校生徒等 100 人以上の短期留学生、3 人の長期留学生を受け入れた。 ③公開研究授業及び研究協議を実践し、30 名近くの外部参加もあり充実した協議を行い授業改善に生かすことができた。	①生徒対象アンケート結果では「世界的な社会問題に関心が深まった」と答える生徒が引き続き目標の 80％を超えず 70％台にとどまっている。教科横断的な授業改善による基礎学力の充実が不可欠である。 ②コロナ以降希望制による国際的な行事への参加者数が減少しており啓発活動を推進する必要がある。 ③授業での一人一台パソコンの一層の活用に向けて、ICT 機器を有効活用した授業研究の共有を継続していく。	・グローバル化が進む社会では他者と話し合い、互いに理解し合うことが必要不可であると考える。コロナ後初の修学旅行の実現や交換留学等積極的なグローバル人材育成への取組が良いと思う。一方、ICT 活用の余地はまだあると考えられるので、県からの補助も必要と感じる。	①生徒対象アンケート結果では「異文化理解が深まった」、の回答が目標としていた 80％を超えたが、「世界的な社会問題に関心が深まった」と答える生徒が 70％台にとどまっている。 ②海外修学旅行が実施できた。姉妹校交流校訪問や座間アメリカン・ハイスクールその他様々な形式での国際交流ができたが、参加する生徒数が減少して傾向にある。 ③前年度の反省を生かした公開研究授業・協議を実施できた。実施形態や内容等については前年度を継承し、課題が残った研究協議については、実施方法を変更し、改善された。また、ＩＣＴ機器を有効活用した授業研究とそのノウハウの共有については継続したい。	①　世界的な社会問題に関心が高まるよう全ての教科において基礎学力と知識を深める授業内容を工夫する。 ②　姉妹校交流校訪問について関心を高められるよう広報活動を充実させる。他の教員と連携し、積極的に生徒及び保護者に働きかける。 ③　課題であった研究協議については、実施方法を見直し、改善した。次年度に向けては、授業改善に向けた取り組みを継続していく。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	○生徒が集中して授業に取り組むことができる学習環境の整備と生徒の学習習慣確立を図る。 ○部活動や特別活動を通した協調性及び人間性の向上を図る。	①生徒が安心して授業に集中できるよう教育相談体制の充実を図りつつ、きめ細かな生徒支援を行う。 ②部活動や特別活動における人格形成の重要性を共有し、生徒の主体的な活動を支援する体制を持続する。	①ケース会議や教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、ＳＳＷを効果的に活用し教育相談体制の充実を図る。 ②今年度、様々な制約のある中で、部活動や特別活動の実施について、生　徒と共に考える場を設けるなど、精神の成長を促す工夫を継続する。	①生徒による授業評価のアンケートで「集中して授業に取り組んだ」と回答する生徒の割合が増加したか。 ②部活動の加入率が増加したか。 ②部活動の定着率が 80％を超えたか。	①生徒による授業評価のアンケートで「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」に対して肯定的な回答する生徒の割合は 84％だった。（対前年比２ポイント減） ②部活動への加入者は、５月時点で延べ 567 名、68％だった。対前年比 12 ポイント減で、目標には届かなかった。	①今後も継続的に授業改善に取り組み、生徒が集中して学習に取り組む雰囲気を醸成していきたい。 ②年度当初の部活動紹介の充実により一層取り組み、部活動加入率の向上を狙う。併せて、高い実績をあげた部活動の広報活動を充実させるとともに、生徒との協議を続けながら意見を吸い上げ、より良い活動のために環境整備に努める。	・授業アンケートの「授業の在り方について」「ｂ　単元（内容のまとまり）の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」に対して、行っている取組を継続していくとよい。 ・登校時、笑顔で挨拶をしてくれる生徒もおり、日ごろの生徒指導の成果と思っております。 ・部活動の加入者が多いことが必ずしもわけではなく、多様性が尊重されるべきと考えられるべきと考えるため結果が悪いとは言えないと思う。一方実績を積み上げている部活動も多くあるので広報に努め志願者数の増加につなげると良いと考える。	①各教科の授業において対話的な活動が組まれていることを生徒自身も実感できている。 ②部活動を含めた様々な生徒会活動をポストコロナの活動へ移行を図った。各部活動の活性化を参加人数の増加と質的な面とで図る。	①効果的な取組を継続するとともに、新１学年から導入する、Ipad の活用等によって、さらなる授業改善を行う。 ②部活動については、活動を充実させながら、加入者数を増やすようにしていく。

	視点	４年間の目標 (令和6年度策定)	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月 11 日実施）	成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	○自立した社会人となるための資質を育成する。 ○社会の趨勢を捉えた適切な進路支援を行い、進路希望の実現を図る。	①高大接続改革について情報を整理し、効果的な進路指導につなげるとともに、主体的な進路実現に向けた取組を継続する。 ②学習活動コンソーシアムや多様な体験活動等の取組により、主体的な進路選択のための支援を行う。	①外部との連携を深める。生徒のニーズにこたえられるキャリアプログラムについて効果的な方法を工夫する。 ②ガイダンスや説明会、講習や補習の充実を図る。生徒の学習や進路についての相談をし易くし、支援する体制をつくる。	①国公立や難関私立大学（早慶上理、G-MARCH）などの大学へ進学する生徒が増加したか。 ②将来の職業を見通して、進路（学校）選択をする生徒が増加したか。	①国公立や難関私立大学（早慶上理、G-MARCH）などの大学へ進学する生徒の数は増加した。 ②将来の職業を見通して、進路（学校）選択をする生徒が増加した。	①生徒の実情や時代の趨勢を考慮し、進路ガイダンスやキャリアプログラムの提供の仕方については、継続的な検討が必要である。 ②推薦や総合選抜を活用する生徒は減少したが、継続的に学習に取り組ませ、一般受験に対応できる学力を伸ばしていきたい。	・多岐にわたる進路先からも、生徒一人ひとりに寄り添って、丁寧な進路指導をしていただいていることと感じている。 ・将来の職業を見通して難関大学を目指したほうが良いと思わせるプログラムを用意するのもよいと思う。進路が多様化する中、先生方の寄り添いがあるのだろうと見受けられて良いと思う。海外へ進出したいと思う生徒が増えると学校が評価されると思う。	①生徒自身が将来の職業を意識した進路選択を主体的に行い、地道な努力を重ね、進学実績を伸ばすことができた。時代の趨勢を見極め、生徒のニーズも意識しながら、これからのキャリア支援について今後も引き続き見直すことが必要である。 ②講習や補習を充実させるとともに、個別のきめ細かい学習支援を粘り強く行ったが、次年度からは新しい教育課程の入試となることもあり、早めの進路決定を志向する生徒が多く、一般受験で希望する大学に合格する生徒を増やすことはできなかった。	①「先行き不透明な社会情勢」を視野に入れ、外部との連携を深め、生徒一人ひとりのニーズにこたえられるキャリアプログラムについて、引き続き効果的な方法を工夫する。 ②講習や補習充実をさらにすすめることはもちろん、生徒が気軽に学習や進路についての悩みを相談でき、それを支援する体制づくりを継続する。
4	地域等との協働	○地域等との連携事業を通した共感能力や協調性の育成、及び社会の形成者としての自覚と奉仕の精神の涵養を図る。 ○地域と連動した防災体制を確立する。	①実施可能な地域連携の形態を工夫する。 ②地域防災の観点から、地域における学校の役割を整理し、生徒の成長に資する活動について工夫する。	①地域の行事交流だけでなく、地域の学校等との交流を推進し、情報共有や相互理解を深める。 ②地域の防災訓練や近隣と連携した防災体制について、学校の役割を整理し、生徒の成長に資する活動について可能な範囲ですすめる。	①コロナ前の取組を参考に、地域との継続的な関係を維持し、進展させることができたか。 ②地域防災について、学校の役割を整理し、生徒の成長に資する活動について可能な範囲ですすめることができたか。	①地域のイベントに吹奏楽部、美術部、茶華道部が参加し交流を深めることができた。 ②地域防災について、生徒会役員による地域防災訓練参加等、生徒の成長に資する活動について可能な範囲ですすめることができた。	①部活動の参加について継続的な関係を保ちながら、新たな交流についても模索していく。 ②生徒のアイディアが来年度活かせるよう努力する。	・今年度は、生徒の皆さんが地域の防災訓練に参加してくれました。また、地域のお祭りや文化祭にも部単位で参加していただきました。今後も継続していけることを期待しています。 ・さらに交流を深められる企画を生徒から提案させると良いと思う。部活動単位など少数ではあるものの、しっかり地域と交流を続けられており良いと思う。	①地域連携の取組をさらに進めることができた。このことをしっかりと捉え、これまでの培った地域とのつながりを引き続き大切にするとともに、可能な活動については実践していく。 ②地域防災について、生徒会役員による地域防災訓練参加等、生徒の成長に資する活動について可能な範囲ですすめることができた。 ②防災マニュアルを整備し、ＤＩＧも実施することで、職員や生徒の防災意識を喚起することができた。	①これまで培った地域とのつながりを引き続き大切にし、部活動や生徒会活動を中心に、今後も、実現可能なものから実践する。 ②近隣の防災訓練や避難所開設訓練などへの参加や近隣と連携した防災体制の構築について、今後も可能な範囲ですすめていく。
5	学校管理 学校運営	○適切な業務分担と進捗管理を行う。 ○学校の課題に対する意識の共有と協働体制を構築する。	①教職員の働き方改革を踏まえ、効率的で質の高い教育の展開に向け教職員組織の活性化を図る。 ②学校全体の事故防止等の課題に対する意識を職員全体で共有し、風通しの良い職場環境を構築する。	①適切な業務配分を行いながら、各グループ、各学年が、主体的かつ計画的に業務を遂行する。 ②事故不祥事防止に向けて各グループ及び各学年で課題を共有して取り組むとともに、話しやすく相談しやすい職場環境を構築する。	①業務分担と進捗管理が適切に行われ、職員のストレスチェックで、高ストレスを抱える職員の割合が 10%未満であったか。 ②事故不祥事を防止するとともに、各職員の勤務時間に、著しい偏りがなく、時間外勤務や休日勤務を行う職員の割合が減少したか。	①職員のストレスチェック診断で、高ストレスを抱える職員の割合は 3.6 ポイン増の 13.8%であった。県全体の平均値である 13.6%より高かった。 ②事故不祥事防止会議等を通じて、職員全体で課題を共有し、職場環境の構築と時間外勤務を減らす取り組みを行った。時間外勤務の多い職員に産業医による面談を実施し、水曜日の「早く帰ろうキャンペーン」を実施した。	①時間外勤務や休日勤務時間が長時間となっている職員には、声掛けを継続するとともに、産業医との面談を行っていく。業務改善についてのアイディアを募り共有し各グループ学年等で検討の上取り組む。 ②事故不祥事防止について繰り返し課題共有を行いながら、職場環境の改善のアイディアを出し合いながら共有して取り組む。衛生委員会も活用し、産業医の協力を得ながら全体で取り組む。	・ストレスの原因の根本は学校内だけではなく、国や県にも問題があると考えられる。必ずしも長時間労働だけがストレスの原因ではないと考える。校内での適切なコミュニケーションが図られるよう取り組みを継続してほしい。	①職員間の連携を強化し、一人でストレスをため込まないような体制を創ることができたとことは良かった。今後もこの状況を継続し、さらなるストレスの軽減に努めたい。 ②産業医との面談も積極的に行うなどにより、職員の健康管理に努め、ストレスを一定程度軽減することができた。	①衛生委員会が中心となり、職員間の連携を図り、職員が互いに相談しやすい職場の雰囲気をつくることの重要性を共有することができた。また、関連する業務での担当者間でのコミュニケーションを適切にとり、十分に話し合うことのできる体制づくりを継続する。 ②事故不祥事防止に向けた取組を行うとともに、引き続き業務分担や配置等の見直しを継続し、バランスの取れた業務改善を行う。